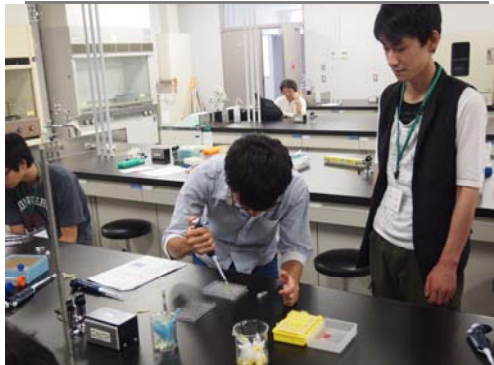


平成25年度
ひらめき☆ときめきサイエンス～ようこそ大学の研究室へ～KAKENHI
(研究成果の社会還元・普及事業)
実施報告書

HT25153 【プログラム名】身近なもののタンパク質や遺伝子をみてみよう。



開催日：7月28日(日)

実施機関：神戸大学農学部
(実施場所)

実施代表者：宇野 知秀
(所属・職名) (農学研究科・准教授)

受講生：中学生5名 高校生13名

関連URL：なし

【実施内容】

(1)受講生に分かりやすく研究成果を伝えるために、また受講生に自ら活発な活動をさせるためにプログラムを留意、工夫した点

1)本事業のリピーターを増やすことと参加希望者が多いために、実験を3つに分けた。3つの実験の内やりたい実験について、あらかじめ受講生に希望をとることにより去年来た受講生が同じ実験にあたらないようにした。

2)受講生に実験の面白さを伝えるために、実験あたり1人以上の実験補助者を付けた。午前中から行うことにより、実験を余裕を持っておこない、受講生と研究について対話する時間を増やした。

3)実験内容については、すべて予備実験を行い、スムーズに受講生が自主的に実験を行うようにした。

4)テキストを事前に受講生に送付し、実験に対する予習を行ってもらった。

(2)当日のスケジュール

9時～9時30分：実験説明

9時30分～12時：実験

12時～13時：昼食

13時～15時：実験

15時～16時：休憩

16時～17時：実験のまとめと未来博士号授与

(3)実施の様子

9時から実験の説明を行った。その後、3つの班に分かれて実験を昼まで行った。

昼食後、午前中に行った実験を引き続き行った。

i)麴の酵素の活性を測定した。

ii)DNAの抽出を行い、遺伝子を増幅した。

iii)タンパク質の精製を行った。

未来博士号の授与式を行った後、5時に解散した。

(4)事務局との協力体制

実験補助者の学生と教官がテキストの作成、封筒の宛名書き、名札の作成、写真の送付、

未来博士号修了証書の作成、休憩の際のお菓子とお茶の手配、実験を行うための教室の準備、予備実験を行った。農学部の事務については、郵便物の送付と会計処理を行ってもらった。

(5)広報体制

近隣中学校・高校へ案内チラシを送付した。

(6)安全体制

保険をかけると同時に、実験補助者1人あたり、4～5人の受講生の指導をさせた。

(7)今後の発展性、課題

1)生物・化学系の実験の場合、安全性と実験に対する丁寧な指導を行うことを考えると、少人数で行うことが大切であった。遺伝子を取るのに苦労したため、今後は実験方法をより簡略化する。

2)高校生の主な対象としたので、遺伝子や蛋白質についての詳しい話ができたので今後もそうしたい。

3)中高生の実験指導を通じて大学院生や教官が自分の実験の意義を考える上で、本事業を行うことは重要であり、研究成果を社会に発信するためにも毎年続けることが特に重要である。

4)今回も早くに募集人数を越えてしまった。参加を断った受講生に対して優先的に受けさせることや来年も実験に参加したい希望者が多いので、来年も本事業をぜひ行いたい。

【実施分担者】

なし

【実施協力者】 3名

【事務担当者】

戸玉 友美

研究推進部研究推進課研究助成グループ・事務補佐員